

栗井逆瀬池（あわいさかせいけ）

位置図



諸元

貯水量	439.3 千m ³
満水面積	5.8 ha
受益面積	107.9 ha
堤高	23.8 m
堤長	113 m

栗井逆瀬池は菩薩山の南東、観音寺市栗井町に位置し、新田町及び栗井町の一部の受益 107.9ha を灌漑する主要なため池です。

江戸時代の急激な開墾により灌漑用水が不足し、既存ため池（栗井新池）の貯水量では賄いきれなくなったため、享保3年(1718)に新田村と栗井村が共同して栗井村逆瀬谷にこの池を築き用水不足に備えることとしました。しかしながら、用水不足は解消されず、この時、両村への水の配分を決めたものの、干ばつが起る度に水紛争が発生しました。

明治時代には日露戦争に勝利を収めた記念に日露戦役記念事業として、嵩上げ工事が着手されましたが、またしても水紛争が発生し、その争いは東京最高裁で審議されるまでに至り、結果として事業開始から6年後の大正3年(1914)に完成しています。その後、昭和37年(1962)から3ヶ年をかけて県営大規模老朽ため池整備事業により全面改修が行われました。

水争いが絶えず長年の懸案となっていましたが、昭和50年(1975)に香川用水が通水したことで、厳しかった用水事情もようやく緩和され現在に至っています。

平成29年度からは、近い将来発生が予想されている南海トラフ地震などに対する備えとして堤体の耐震補強工事が実施されており、ため池下流域の安全を確保することとしています。



栗井逆瀬池



今も池内に残る量水石